

鹿児島県 奄美大島

大和村 の 教育

人・自然・文化・歴史



大和村教育委員会

〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地

TEL : 0997-57-2154 FAX : 0997-57-2271



♪ 大和村民歌

作詞 中山 高榮 作曲 西 孝子

村章

1. 山紫に その古^{むかし}
 南の島の 麓原
 光り輝く 豊かさ
 流れる汐は 岸を打ち
 歴史の郷と 人はいう^{さと}
 讃えよその名 大和の村を



村花つつじ



村木モッコク

2. 福元原に 露映えて
 みのりの風は なにさそう
 海山の幸 いつまでも
 拓けその土 香に匂う
 結ぶ力の 雄々しさに
 願おうその幸 大和の村を

3. 乙女の姿 清らかに
 箒一筋と 胸に秘め
 腕^{かひな}ふるわん 村おこし
 想いあまねく 浦々の
 連なる里に 延^{ちえ}びて実る
 燃やさんその叡智 大和の村を



名産すもも

郷土の先人

直 川智 (スナオ カワチ/生没年不詳)

大和村大和浜出身。黒糖創始の祖。琉球に渡航中、台風に遭い現・中国の福建省に漂着。黒糖の製法を習い、苗を数本かくして持ち帰り、磯平パーク付近に試植した。

田畑 佐文仁 (タバタ サブンジ/1678-1764)

現龍郷町出身。江戸時代中期に全島で数多くの新田を開拓。福元盆地でも新田開拓工事を行い、今でも開田跡や隧道跡を見ることができる。

屋 実元 (オク サネモト/1841-1908)

武下 喜美堅 (タケシタ キミタケ/1845-1897)

屋は戸円出身、武下は大棚出身で、1877年黒糖自由売買運動で陳情団に加わり、西南戦争に従軍した後、これからの世は「学問ど、学問ど」と学問の大事さを説いた。

海老原 万吉 (エビハラ マンキチ/1890-1965 頃)

宮崎県出身の船大工。大和村大金久に住み、琉球のサバニと奄美大島のイタツケの折衷舟であるアイノコ舟を考案。たちまち奄美全域に広がり漁で活躍した。

奥田 愛正 (オクダ アイショウ/1903-1981)

大和村大棚出身。東京高等師範教員養成所卒業後、母校大島中学の数学教師となり、46年に同校長に就任。退任後は奄美群島政府文教部長に就任し、戦時中荒廃した島々の学校を再建に尽力した。

大和村の名所



宮古崎

奄美群島国立公園の第3種特別地域。岬一帯がリュウキュウチクで覆われ、奄美群島の中でも特異な風景が広がる。



国直海岸

白い砂浜が広がり、海水浴やシーカヤックなどのマリンスポーツ体験が可能。夏の間は水平線に夕日が沈む。



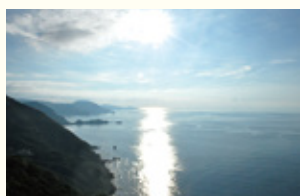
大和ダム

大和川水系三田川にある堤高45m、堤頂長90m、総貯水容量78.4万 m^3 のダム。環境保全対策を実施しながら建設された。



開饒(ひらとみ)神社

黒糖製造の始祖である直川智を祀った神社。製糖や黒糖焼酎製造関係者がお参りに訪れる。ひらとみ祭当日に安全祈願が行われる。



嶺山公園

東シナ海を一望できる絶景スポット。灯台や展望所があり、春はケラマツツジが咲き乱れ、冬はホエールウォッチングができる。



磯平パーク(西浜)

約400年前に国内で初めてサトウキビ苗を植えられた土地と言われている。村民体育大会の玉入れ用に蘇鉄の実の収穫を行なう場所でもある。



奄美フォレストポリス

湯湾岳のふもとにある森林公園で奄美群島国立公園の第2種特別地域。昆虫観察、川遊び、キャンプなどが楽しめる。満天の星空が美しい。



マテリアの滝

奄美フォレストポリス内にあり、「本当に美しい太陽の滝壺」という意味の美しい滝。昔は旅人が疲れを癒す休憩所だった。



ヒエン浜

奄美群島国立公園の第3種特別地域。ビーチロックや珊瑚礁が形成する美しい海岸線にはアダンが群生し、オカヤドカリが多く生息している。



徳浜の断崖

海上にそそり立つ約172メートルの断崖。名音トンネルが貫通している。断崖は鎌倉時代の大地震でできたと言われている。



九州電力 新名音川発電所

昭和31年から運転をしていた発電所は、老朽化のために再開発工事を実施。平成28年6月に新名音川発電所として運転を再開。



今里の立神

奄美群島国立公園の第2種特別地域。海上にそびえる海拔62mの巨岩で、集落の守り神やノロ神信仰として崇められてきた。

大和村教育委員会沿革概要

昭和21年(1946)	「2.2宣言」により奄美は本土から行政分離され米国軍政府下に統治される。
昭和23年(1948)	祖国日本に1年遅れで新学校制度における新制小学校・中学校が発足
昭和25年(1950)	大和村中央公民館設立・発足
昭和28年(1953)	奄美群島日本復帰
昭和29年(1954)	昭和27年に全国の各市町村に教育員会を設置、大和村初代教育長就任
昭和38年(1963)	大和中学校が特別天然記念物アマミノクロウサギ飼育開始
昭和46年(1971)	大和村内初の大和小・中学校に学校プール完成
昭和57年(1982)	大和村体育館完成
昭和61年(1986)	センター方式による給食開始
平成7年(1995)	大和村民プール完成
平成15年(2003)	自然の中での体験活動・大和っ子スクール開校
平成20年(2008)	大和村政施行百周年記念式典
平成23年(2011)	統合による新設大和中学校開校
平成25年(2013)	戸円小学校閉校、第1回子ども議会、夏休み学習教室開始
平成27年(2015)	土曜授業開始
平成28年(2016)	本村小学校と奄美市の小学校との交流学习開始
平成28年(2016)	大和村防災センター完成

村の人口及び児童・生徒数の推移

	村人口	小学校	中学校
昭和23年	6325	919	306
昭和30年	5528	708	372
昭和40年	4284	690	325
昭和50年	2733	411	242
昭和60年	2419	224	134
平成12年	2104	151	92
平成29年	1507	64	40

大和村教育行政の基本方針

- ① 大和村の教育風土を構築した人・自然・歴史・文化にふれ、それらをはぐくんできた先人や郷土に愛着と誇りをもち、未来にはばたく大和っ子を育成する。
- ② 奄美の精神文化である・人にはやさしく自分には負けない「スツゴレ魂」の育成。
- ③ 小規模校だからできる教育。小規模校だけのできる教育の推進。集合学習、交流学习、個に応じた指導。



故郷に愛着と誇りをもつ学校教育

●平成 29 年度児童生徒数



大和小学校

児童数 31 名 4 学級／黒糖づくり、八月踊り



大和小学校湯湾釜分校

休校中



大棚小学校

児童数 14 名 3 学級／米づくり、八月踊り



名音小学校

児童数 7 名 3 学級／島唄・三味線の伝承活動、黒糖づくり、ガヤマキづくり



今里小学校

児童数 12 名 3 学級／島唄・三味線の伝承活動、親子留学制度校



大和中学校

児童数 40 名 3 学級／棒踊り、ナギナタ踊り

村内の保育所・保育事業所

●保育所

大和村立大和へぎ地保育所
大和村立大棚へぎ地保育所
大和村立名音へぎ地保育所

●小規模保育事業所

大和村立まほろば保育園

●教育委員会関連行事



①学習的行事

夏休み学習教室
冬休み学習教室
大和っ子スクール
子ども議会
インターネット塾
公民館講座
成人式



②体育的行事

村民体育大会
ジョギング大会
まほろば大和ウォーキング大会
グラウンド・ゴルフ大会
ソフトボール大会



③スポーツ団体

スポーツ少年団
体遊クラブ

●社会教育的施設



大和村体育館



大和村民プール



大和村防災センター



奄美フォレストポリス (キャンプ場、運動場、グラウンドゴルフ場、水辺の広場、遊技広場等)



奄美野生 生物保護センター

(奄美群島の生きものや自然を保護するために設立された環境省の施設)

大和村の文化財、記念物

●国指定特別天然記念物



アマミノクロウサギ（昭和 38 年 7 月 4 日指定）

奄美大島及び徳之島の固有種で、特異で原始的な形質を有する等、学術的に重要な種。大正 10 年には動物として初めて国の天然記念物に指定されている。大和中学校は国の許可を受け昭和 38～平成 4 年まで観察飼育を行っていた。その他、ルリカケス、アカヒゲ、オカヤドカリ、オオトラツグミ、カラスバト、オーストンオオアカゲラ、トゲネズミ、ケナガネズミも天然記念物に指定されている。



オキナワウラジロガシ林（平成 20 年 3 月 28 日）

オキナワウラジロガシは奄美大島から西表島に分布するブナ科の常緑高木。大和浜の滝川山（タキノコヤマ）では神山として古くから保護されてきた。琉球列島の代表的森林であり、北限域の奄美大島で数少ない自然林として学術的価値が高く重要。 場所：大和浜 滝川山

●国指定文化財 国登録有形文化財



今里小学校旧奉安殿（平成 19 年 12 月 19 日指定）

戦前の日本で、天皇皇后の写真と教育勅語を納めていた建物。終戦後、奉安殿は廃止されたが、学校の歴史の一部となり地域の人たちにとって時代を偲ぶ遺物となっている。校舎裏の山裾に建ち、切妻造平屋建の鉄骨コンクリート造り。 場所：今里クツレ

●県指定有形文化財



大和浜の群倉（高倉群）^{ホレクラ}（平成 16 年 4 月 21 日指定）

主に穀物を貯蔵するための倉庫が高倉で、その集まりを通称「群倉」と呼ぶ。釘を一本も使用していない、柱は鉋で削り上げているのでネズミが登れない、風通しがよいので貯蔵物の保ちがよいなどの特徴がある。

場所：大和浜字瀧の川

●県指定有形民俗文化財



奄美大島のノロ関係資料（平成 18 年 4 月 22 日指定）

奄美から沖縄で集落の繁栄と安全・五穀豊穡等を祈る神祭りを行う神女組織または個人の神女をノロと言い、ノロによる祭礼等に関する衣装・装飾品・祭祀具・古文書（辞令書）等のこと。平成 15 年に大和村中央公民館貯蔵の玉ハベラと首飾り、龍繡胴衣（リュウシュウドギン）の計 3 点が追加された。

●村（候補）



大和浜 和（ニギ）家石垣



浦内湾の船乗り場



今里の大木フクギ

和家石垣

和家は琉球時代以前の奄美の巨族で、藩政時代は島役人を務めていた。

船乗り場

昭和 36 年のバス開通まで浦内の人々が名瀬への物流航路として利用していた棧橋。

今里の大木フクギ

村内随一の胸高直径約 1m のフクギが 3 本現存。樹齢は約 400 年以上と推測されている。

大和村の旧跡

■津名久焼き（津名久）

明治初期～明治 12 年頃まで津名久集落の釜で焼かれた陶器。現在は村内に 6 点確認されている。

■毛陣貝塚地（大棚）

12～13 世紀頃の土器が発見され中国の須恵器であったことから、中国との貿易が推測されている。

■屋 実元顕彰の碑（戸円）

砂糖の自由売買陳情団の一人である。陳情に挺身した功績を称えた石碑。

■名音マンガン坑跡（名音）

大正時代から 1964 年まで採掘し、名音港から船で八幡製鉄所や神戸製鋼に荷出した。鉱山の面影はほぼない。

■^{イジュンゴ}泉川（津名久）

津名久の尾神山トンネル付近にあり、おいしい湧水として知られ、帆船時代の船の給水にも重宝された。

■山の神の祠（福元）

享保 5 年に田畑佐文仁が、福元盆地・深山開拓の際の犠牲者の霊を慰めるために建立した。

■ヒエン遺跡（戸円）

砂丘にある遺跡で、兼久式土器という古墳～平安時代頃に使われていた甕や壺などが発掘された。

■今里カツオ漁業記念碑（今里）

1999年、カツオ漁 100 年を記念して建立。カツオ漁は 1902 年より盛んになり、1964 年に真漁丸の解散で幕を閉じている。

祭り・伝統芸能



各集落の豊年祭

旧暦 8 月 15 日直前の日曜に十五夜豊年祭として 5 集落が開催、旧暦 9 月 9 日直前の日曜にクガツクンチ豊年祭として 4 集落が開催。今里は 8 月のお盆前後に開催。男子たちは 0 歳から土俵入りを行い、壮年になるまで相撲を取る。近年は敬老会も含まれている。



思勝のキトバレ踊り

祈禱払いの意で秋の行事。集落内 3 箇所を輪になって八月踊りを踊る。



大和浜の棒踊り

10 歳位から壮年までの男性が集落の豊年祭で演舞する。

大和浜のナギナタ踊り

婦人会が集落の豊年祭で演舞する。

湯湾釜のムチモレ踊り

旧暦 10 月 16 日に家々の庭先で三味線や太鼓に合わせて踊る。顔を隠し男性は女性の浴衣を身につける。



舟漕ぎ競争

8 月最後の日曜に開催するひらとみ祭で、アイノコ舟を使い速さを競う。